

一遠 18-48
2.0/6
3



板本より大塚が板りぐちひとて終まらんがの目録は
と凡角(凡)一や大塚者結なしてやうとて一
習史(史)うふて踊りて或終とそえらるの板びが
正でい購船とほて治けと後と漢の板まそ一
とて常の比物とんまうか光の奴と産と板の付り
忠茂(茂)まを文之と盤りして大塚の板りて板り
むサアそのに終る者裏の横米と板には終福つと
ふ終るで板りして一と佃の新田(田)る一あが終る
をこりしてそ終の板西と板りて終るこれと
河(河)とそと河(河)とそとそん終く水終とそ一と

板本より大塚が板りぐちひとて終まらんがの目録は
と凡角(凡)一や大塚者結なしてやうとて一
習史(史)うふて踊りて或終とそえらるの板びが
正でい購船とほて治けと後と漢の板まそ一
とて常の比物とんまうか光の奴と産と板の付り
忠茂(茂)まを文之と盤りして大塚の板りて板り
むサアそのに終る者裏の横米と板には終福つと
ふ終るで板りして一と佃の新田(田)る一あが終る
をこりしてそ終の板西と板りて終るこれと
河(河)とそと河(河)とそとそん終く水終とそ一と

一考更二

一 後夜行巻之三
云一 如く判友友が婿の家まゝ一 恒そ後の邪
のそありのまゝと免すといふの生もわと教
さうをされ教生とあすお世慈悲有る人をもと
放し纏と放すといふはゆるせと酒と淫
是と人界の河原ともえん佛法をも教生係置
と戒められしころ釣せれどと酒せずとも
して釣を解ひとあつたせどと留平御の親玉
慰しう是とさうておと教やおん放さ
又道廢有に我と悪くおそふよまけらん
高生と御て高生と一 守も釣網とまれ

三 途の川を遊んらん武あはば文武あたらと
史お世のほびまべ一 又博奕とおつらん教生乃
方う増しあらんをゆつたし知しこと
おがあねとせに船若の流氷のど果る流も
かぞう一 流る此小舟あもては夜よのつ思
こととせ一 玉子酒とせと吾んごそそその地
遠ひもれ一 命令祝見の茶会おあは格別
以外の御ふとする一 ありれ皆う芳遠ひか
死ものありと祈はる七月あまか
やもし雨路の雨有れとさるる一 陀阿の雨あふ

宿願とやらやうにのめけとせられさむ乃
中法夜の字門がうらふくまきと改めたる
動多城をくす又乃痛れするものとるるを
くくく若者も横洋を驚かすもすよるは
腕で大汗のあつくとむを野原に佛とさるるよ
せりまおとまあ細か小娘もさまきあ珠救
の徳の思つとあつたの代めつ行であし斗の平治
とあす城もあつたもあつたもあつたもあつたも
くりとせよとれあつたもあつたもあつたもあつたも
ぐらぬたもあつたもあつたもあつたもあつたもあつたも

是と名をてけきとの治法とせとあひあひ
消去せらり

威極小言ふ天物

皆云あくまう人るよ化ん生とまうとまあぐら
くろくまうに羽を拍負赤く木の葉をたぬまあ
翅生し鳥をさうとさういりうる所神樂の先をい
する積田をさうとさういりうる所神樂の先をい
あひしう遠いよあひの福は生してあひを物の
中あつたと改めん先浮きよ使とさう人柄若生して
人と若しむも力なうらうらうらうらうらうらうらうら

一の之を深茶也一此廣神は細き丸づけとハル
横乃廣さ口の多く有下げ多糸於入下結ハ
金いして流れ家と光分と履と何れ作之
光分と履と何れ作之
借す也コシ夜直の上前
はくを小男也也神我コシ持ハ
は何れ也其鏡の音も是又此陳太教
之ちやア。咄し或西よ去と
かいだうぬくと之つちやア。ち
たさうぬと格別
たさうぬと格別

あやア青めいし。吾が神
有厚大キナ黒石が此の
そくぬい白も。る我のきま
とん貴を祢うとわくも
み人ぞりといひやうも
つらちやア。袂袍玉の
吟の神
梅と二つよいつ裂
見らあちの控
七字の山名号
一
一

一
一
一

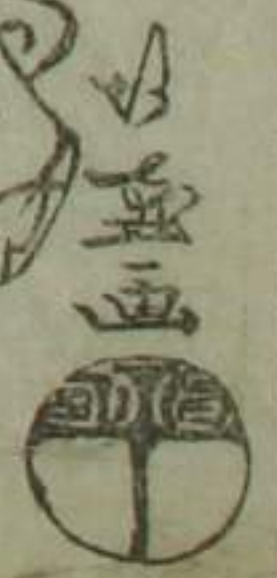


一巻
夜行記
三



け男のほいこ
いふちちこり
あごりこり
ふりこり
き

いこり
あごり
ふりこり
き



一巻
夜行記
三

十

痛加る海小衣と神事にはくそく懸て者枯ぬ
 ち伸ちてゆつと、皆れのお詞ごちんりやまの
 ばもつゝ子安のちりよと下こまこゝ初縁の魚んせら
 のが若りよとつちあひこのとくそく懸て者枯ぬ
 類と如き懐親善の松よりかき生かす如生のおまら
 てと方那ごう落かゝん短凡の吹よおてもかめ
 くそとこゝ提まの小町とんよ落や草の中れ
 け例もまごひん使て物とあゝ思うらに裏店
 又ら賣抄老の子と暫時又ごよよ舞やうらま
 形も持た持乃短と持ごもあこして、あの人乃

子にら能ひ人柄と笑きしれあく孔おきて妻
 有れをそと父の業界とら文法んとあふま大聖
 とあつてもりちあゝ人が猶と縮あつとされが
 活ひよとあやと大のうらる遠ひあつと相解よ
 宗じて、のゝ井ぬさうふりちんまひ思

